

どーんと コミュニケーション



「リオデジャネイロオリンピック」

Vol.125

日本の選手の活躍が素晴らしい。この原稿を書いている19日現在、金メダルの数が12個となり、特に昨日は、レスリングでオリンピック四連覇の伊調選手と登坂選手、土性選手の三人が共に逆転勝ちで金メダルに輝きました。水泳、体操に続いて卓球やバドミントンでも世界と渡り合える実力を示してくれています。そんなことで毎日のオリンピック放送が楽しみになっています。テレビにかじりつきで、寝不足の皆さんもいるのではないでしょうが。

さて、開催国ブラジルは多くの日本人が移民をした国で親しみのある国ですが、地球の真反対にあり最も遠い国でもあります。時差は丁度12時間ですが、このことがテレビを楽しむのに大変具合が良いと感じています。同じ時間のまま午前と午後を変えたらよいわけですので、現地の時間に合わせてお昼寝の頃になりまして、こちらが夜寝る頃に向こうではお昼前で、競技が始まりますので私は日本選手の調子をチェックして結果を楽しみしながら寝ます。翌朝5時頃にテレビをつける三位決定戦や決勝戦が行われているという塩梅です。また、夜寝ている間に素晴らしい結果が出ているということも多くありました。今回のオリンピックではあまり期待を裏切られることなく、素晴らしい画面が待っていてくれるので、本当に楽しませてもらっています。

私はスポーツ大会の開会式などでよく言うのですが、スポーツができるということはとても幸せなことです。戦争や紛争の起きているところではスポーツどころではありません。オリンピックは世界中で楽しまれ、勝っても負けても命を落とすようなことはありません。この平和の祭典を見ていて感じることは、どうして世界中で争いが起きているんだらうという疑問です。いろいろな争いも武器でなくスポーツで片を付けたら面白いと思います。もちろんそれができるのなら争いはおきないでしょうが。

最後に、吉田沙保里選手の決勝での敗戦は誠に残念でした。銀メダルといえどもとても立派なものです。それは普通の競技者にとってはです。吉田選手は特別な存在と言えます。これまで、オリンピックを含む世界大会で16連覇という、あのロシアの伝説的なレスラーであるカレリンをもしのぐ記録を打ち立ててきました。まさに霊長類最強と言われるゆえんです。そして我が三重県の誇る偉大な選手です。彼女にはこれまでの頑張りに対しあらん限りの大きな拍手を送りたいと思います。



Vol.152

豊かな就学前人権実践交流会の講演の冒頭で、大寺和男さんは「思い込みを克服しましょう」と話されました。思い込みが、細部を見ようとしくなくなり、思考の停止を生み、偏見を起こしてしまうことを心配したのです。子どもへの思い込みの問題は、積み重なると、子どもへの無関心を生じさせ、大人自らの無自覚を形成していきます。子どものありのままの姿を見つめることが、望ましい幼児教育・保育の出発で、成長過程にある学校教育でも大切なものとされています。乳幼児期の育ちは人生全体にわたって大きな影響を与えます。遊びと人の心を読む力の重要性が言われ、遊びが、成長のために大きな役割を果たします。遊びは自由度が高く、楽しい感情によって進行し、社会性を育むからです。また、相手・人の心を読むことが遊びの場を通して大きく育てられます。そして、子どもの精神発達において重要な能力であるコミュニケーション能力もそこで育てられ、豊かな人権感覚を養う上でも大切なものとなります。気持ちや伝えられるようになることが、人権についての意識を高める第一歩だともいえるのです。

小1児童が入学時に学校生活に戸惑い、混乱する問題が取り上げられて久しくなりましたが、幼稚園・保育所と小学校での生活（文化や価値尺度）の違いから生じる戸惑いに対して、幼児教育と学校教育の接続「子どもの育ちを大切にしていく」取り組みが重要になってきているのです。そして、大人自身が子どもたちの姿から学び、自らの生き方を見ていくことができます。必要な時代になってきています。